

令和4年度碧南市心身障害者福祉センター指定管理者審査委員会 会議録

1 日時

令和4年8月5日（金）午後1時30分から午後2時10分まで

2 場所

碧南市役所2階 談話室3

3 出席者

(1) 出席委員

碧南市副市長 金沢 宏治（委員長）

東海税理士会刈谷支部副支部長 伴野 義雄

碧南市身体障害者福祉協会代表 鈴木 たか子

碧南市手をつなぐ育成会代表 三浦 志朗

民生委員児童委員協議会代表 高須 康治

(2) 事務局職員

福祉課長 山本 貴史

福祉課社会福祉係主事 亀島 瑞生

(3) 指定管理者

碧南市社会福祉協議会 局長 杉浦 浩二

碧南市社会福祉協議会 管理課長補佐 石川 広也

碧南市心身障害者福祉センター 西原 香織

4 傍聴者

0名

5 議題

(1) 令和3年度管理状況及び利用状況について

(2) 令和3年度収支決算状況について

(3) 令和4年度事業計画について

(4) 令和4年度収支予算について

(5) その他

6 議事の要旨

(1) あいさつ（金沢委員長）

(2) 議題

ア (1)令和3年度管理状況及び利用状況について及び(2)令和3年度収支決算状況について指定管理者が会議資料に基づき、議題(1)及び(2)を相互の関連があるため一括して説明した。その後、審議した結果、承認された。

＜主な意見・質疑＞

【委員】

施設利用者からのご意見について、意見箱を設置したが、意見がなかったで終わってしまっていることに対して、事業に前向きでないと感じた。意見がなかったとしても、利用者へアンケートを取るなど積極的な関心事として事業を行ってほしい。

【指定管理者】

今後はアンケートなどの事業を積極的に行っていく。

【委員】

会議資料6ページ掲載の令和3年度決算資料について、支出の部で予算額と実際の支出額に相違があるものの詳細が知りたい。例えば、消耗器具備品費について何を購入予定であったか、また業務委託費について予算額に対して支出済額が低い理由は何か。

【指定管理者】

消耗器具備品費に関しては、特定の物を意識して予算を計上するのではなく、直近の支出状況を勘案しながら予算の積算を行っているため、予算額と実際の支出額とは差異が生じる。また、業務委託費に関しては、コロナ下ではあるが、できるかぎりすべての事業を行う想定で予算を計上している。しかしながら、実際にはその時々々の感染状況に応じて、事業規模を縮小することや事業自体を中止することがあるため、支出額は少なくなる。

【委員】

「ほっとまんま・カフェ」について、人数制限はしているのか。また、毎月5日開催と資料に記載があるが、土日に被ってしまった時も開催しているのか。

【指定管理者】

人数制限は特に行っていない。また、土日祝日と日程が被ってしまった場合は直前の平日に開催される。

【委員】

令和3年度決算資料の人件費支出に関して、前年度と比べて支出額が大きく減少しているが、理由は。

【指定管理者】

職員の人数は変わっていないが、令和2年度に関しては1人あたりの給与単価が高い職員がいたため、支出額が高かった。令和3年度以降は支出額が減少している。

【委員】

会議資料7ページにある社会参加業務委託について、令和3年度は事業の中止が多かったようだが、その際、参加者への連絡はどのように行っているのか。

【事務局】

事業への参加申込の際に、参加者から連絡先を伺っているため、電話による中止連絡を行っている。

【委員】

障害者デイサービス事業について、コロナウイルスの影響で、様々な事業で参加者数の減少や参加者自体がないものが見られる。今年度に関しては、事業計画はどうなっているのか。また、昨年度に比べ参加者人数の増加が見込めるなど、現時点での実施状況や傾向を知りたい。

【指定管理者】

水泳教室に関しては、昨年度は中止期間があったが、今年度は開催できており、定員30人に対して20人前後の参加がある。また、パン作り教室については、昨年度は中止したが、今年度は例年よりも参加人数は少ないものの、開催できている。料理教室に関しては、事業計画にはあったが、昨年度に引き続き開催を見送っている状況である。

【委員】

コロナ下において状況が日々変わる中で、対応に苦慮する場面も多いかと思うが、できるかぎり事業の開催を目標として、運営を行ってほしい。

イ (3)令和4年度事業計画について及び(4)令和4年度収支予算について指定管理者が会議資料に基づき、議題(3)及び(4)を相互の関連があるため一括して説明した。その後、審議した結果、承認された。

<主な意見・質疑>

【委員】

障害者デイサービス事業について、障害者手帳の所持者であれば参加できる事業であるが、参加者のほとんどが身体障害者福祉協会の会員であるように感じる。また、その協会に関しても新規の会員は少なく、会員数が年々減少している。せっかく良い事業があり、参加資格がある方もたくさんいるのにも関わらず、こうした状況にあるのは、非常に歯がゆい思いである。事務局が工夫をして、宣伝等行っていることは承知しているが、もっと参加を促せる方法があるとよい。

【指定管理者】

身体障害者福祉協会からは、日々意見を頂いており、その都度良い方法を模索している。これからも、ただ宣伝するだけではなく、事業の魅力が伝わるよう宣伝の方法を工夫するなど、少しでも事業への参加を促せるよう努めていく。

【委員】

令和3年度の事業実績に記載のあった居場所提供事業について、令和4年度の計画に記載がないことが気になった。「ほっとまんま・カフェ」に関しては、障害児の保護者やピアサポーターが子どもについて話せる場として紹介されている。この事業は、今後大人になっていく若い世代の障害者の状況や意見を聞くことができ、今行っている別事業の参考にもなると思う。しかしながら、こうした事業を計画に記載していないことから、事業に対する姿勢が消極的であると感じてしまう。

【指定管理者】

事業が計画に掲載されていなかったことに関しては、今後改めていく。また、今回の意見を踏まえ、若い世代には当事業のような場でアンケートを取るなどして、ニーズを把握し、よりよい事業の運営を心掛けたい。

ウ (5)その他議題、連絡事項なし。